



2014年12月12日 第817号



発行 関西学院大学新聞編集部  
 〒662-0891 西宮市上ヶ原1番町1-155  
 関西学院大学新学生会館3F  
 電話：(0798) 51-1181  
 E-mail: kgpress2009@yahoo.co.jp

# 大盛況の8日間

## 新月祭2014

新月祭2014が、神戸三田キャンパスでは10月25・26日に、西宮上ヶ原キャンパスでは10月31日・11月1・2・3日に、そして西宮聖和キャンパスでは11月22・23日に行われた。



新月祭2014の様子

小室さんは「企画や模擬店の周りでは学生と来場者の方との楽しそうな交流が見られ、ライブなどでは学生とお客様の一体感がありました。どんなときも、皆様一人一人に新月祭2014を思いっきり楽しんで頂いたのが、常に盛り上がり続けていたと言えます」と新月祭を振り返った。

今年の新月祭全体で苦勞したことややりがいについて、「基調説明会で全関学生の話参考にしつつも、大学祭実行委員会側の意見を上手く反映していくことが難しく苦勞しました。また、『家入レオ後夜祭ライブ』『You can shine! 新月の空に輝く』では前座を務めさせてもらいました。皆さんとてもノリが

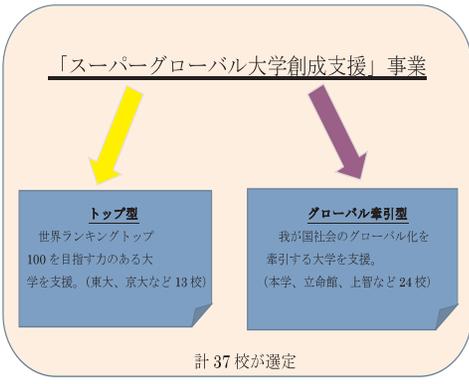
良く、楽しくやらせて頂きました。前座では家入レオさんの代表曲にちなみShineを合言葉にお客様と掛け合いをしました。想像していたよりも大きな声が返ってきて正直驚きました。皆さんの協力がありました。皆さんの協力があって、最高のライブになったのではないかと思います」と語る。

新月祭に関わった全ての人々に向けて「新月祭2014は無事大成功に終わりました。企画や模擬店の皆様が楽しく過ごしているのを見て本当に嬉しかったです。今、私は『感謝』の気持ちで溢れています。本当にありがとうございました」と話した。

本学の一大イベントである新月祭は今年も無事に終了した。学校にとっては欠かせない組織である大学祭準備委員会が今年も本学に大きく貢献してくれた。来年の新月祭も関学生全員で力を合わせて、大いに盛り上がりたてほしい。



「グローバル・アカデミック・ポート」構想を表す5つのキーワード
①「ダブルチャレンジ制度」
②「協定に基づく海外派遣学生数 日本一」
③「国連・国際機関等へのゲートウェイ創設」
④「国際通用性のある質保証システムを構築」
⑤「ガバナンス改革による総合的マネジメント実現」



9月26日、文科科学省は本学を含めた全37大学を「スーパーグローバル大学創成支援」事業に採択した。この事業はグローバル化が進む中、大学の国際競争力向上とグローバルに活躍できる人材を育成していくことを狙いとしている。今回の選定にあたって100校以上の大学が応募し、熾烈な競争となった中、本学は我が国、社会のグローバル化を目指す力のある大学を支援する「グローバル化牽引型」に採択された。

今回、我々はスーパーグローバル大学プロジェクト事務局の小野宏さんに話を聞き、このビッグプロジェクトに迫ることが出来た。

そもそもこの事業、一体どのようなものなのだろうか？これについて小野さんは「日本の大学における国際競争力を向上させるための施策」と話した。近年、グローバル化の流れの中で日本が新しい産業の創出等を含めた経済発展には、人材育成を担う大学教育そのものの改革が必要不可欠である。そのための政策として

今回、我々はスーパーグローバル大学プロジェクト事務局の小野宏さんに話を聞き、このビッグプロジェクトに迫ることが出来た。

今回、我々はスーパーグローバル大学プロジェクト事務局の小野宏さんに話を聞き、このビッグプロジェクトに迫ることが出来た。

今回、我々はスーパーグローバル大学プロジェクト事務局の小野宏さんに話を聞き、このビッグプロジェクトに迫ることが出来た。

「国際性豊かな学術交流の母」では、今回の選定を受けてどのような変化が起きるのだろうか？本学では新たに「国際性豊かな学術交流の母」

て生まれたのがこの事業であり、学生のグローバル対応力育成を積極的に進める大学を金銭的な面で支援することを目的としている。

今回、本学がこの事業に選ばれた背景について小野さんは「本学はもとも歴史的にグローバルな大学であったことに加えて、以前から国際化を着実に進めてきたからだ」と話した。本学はアメリカ人宣教師のランバス氏によって125年前に創られたことにもちなんであるが、近年の様々な国際教育プログラムの質量の拡大も「グローバル化」の基盤作りに一役買っていたと言える。

本学が世界の学生と日本の学生とが集まる「母港」となり「世界市民の育成」という本学の理念への新たな一歩が踏み出された2014年。本学の挑戦はまだ始まったばかりである。本紙でも今後、本学がこれから取り組むスーパーグローバル大学事業の新しい施策にシリーズで迫っていく。

港「グローバル・アカデミック・ポート」の構築」という構想を掲げた。この構想は本学を「日本と海外の学生・教職員が行き来する学術交流の母港」として整え、本学の理念「Mastery for Service」を体現する世界市民の育成を実現することを目標として5つの柱からなる新施策を今後10年間で実現していく（左表参照）。

2,3面 KGニュース プロジェクトシミュレーション

4,5面 新月祭特集

6面 連載記事 K.G. studio

関学はおしゃれな大学として有名だ。みなさんの中に服装や髪型にこだわりのある人は多いであろう。ファッションは自らの個性を出す一つのツールである。服装で自分の性格や好みの表現を楽しむ人は多い。ファッションを楽しむうちに、有名デザイナーやブランド商品などの知識を得ることがある。世間でも有名なブランドや個性的でデザイン性の高いファッションアイテムは、確かに心に響くものがある。しかし本来ファッションは個性を表現するためのものであり、かけた金額やブランド名そのものに価値はない。だがたくさんのお金を使ったり知識を得たりしているうちにかけた金額やブランドの種類にばかり目がいく人がいる。ブランド名やかけたお金の額を持ち出し、服装に関心が無い人や知識のない人を馬鹿にするのは、自らの優位を強調するためにほかならない。ファッションは個性を出すためのものだ。人を見下したり自分に価値を持たせるためにこだわりを持つのはファッション本来の目的を見失っている。おしゃべりが好きな人には、外見はただの個性であることを認め、ファッションへのこだわりが人と比べる手段に変わっていないか確かめることをおすすめする。



# 時計台に光と音のマジックを

## 関西学院大学創立125周年記念 プロジェクトマッピング



小澤 照さん(理・3)

「今までにない、新しいことに挑戦したかった」。そう語るのは、本学創立125周年記念プロジェクトマッピング実行委員会会長の小澤照さん(理・3)だ。12月19日から21日の夕方の3日間、西宮上ヶ原キャンパスのシン

ボルである時計台に、プロジェクトマッピングを行うという。プロジェクトマッピングとは、凹凸のある壁面や建築物、家具、空間などの表面にプロジェクターで映像を投影する手法である。この企画に興味を持ち集まった学生たちとともに、連日日本番へ向けた準備に追われている。神戸三田キャンパスの校舎に一度プロジェクトマッピングを投影したことがあり、より大規模なものを

やってみたいと考えたのがきっかけだという。そのときの反響が、今の原動力となっている。苦労している点について小澤さんは、「時計台というその限られたかたちをどう生かせば、観客の固定概念以上の映像が作れるのかを考えるのが難しいです」と話す。テーマは「映像と音楽で祝う降誕」。125周年の歴史を昔の校舎の写真などを使って表現する。また、クリスマスにちなんだ映像も投影する。さらに、映像だけでなく、音楽を流したり、観客のスマートフォンで映像を操作する参加型マッピングを予定していたりと、観客を楽しませる仕掛けがたくさんある。

世間でも注目を浴びているプロジェクトマッピングを本学で行うことが出来るのは、125周年記念だからこそ。学生だけでなく、一般の方にも楽しんでもらおうという狙いがある。小澤さんは「プロジェクトマッピングの良さを多くの人に知ってもらい、見ている人が一体となれば」と意気込む。人々に感動を与えるプロジェクトマッピングになること間違いなし。大いに楽しめる3日間になりそうだ。

11月9日から12日に、第3回K.G. MOONWALKが開催された。このイベントは、甲東園・上ヶ原・門戸厄神の3つの地域の飲食店で食事を楽しむことができる、チケット制バルイベントである。参加者はチケットを購入し、参加店舗で使うことにより、特別メニューが楽しめる、という仕組みだ。合言葉は、「学生×地域＝甲東園・上ヶ原・門戸厄神をもっと元気に！」である。

# 地域の活性化は「食」から!

## K.G. MOONWALK

11月9日から12日に、第3回K.G. MOONWALKが開催された。このイベントは、甲東園・上ヶ原・門戸厄神の3つの地域の飲食店で食事を楽しむことができる、チケット制バルイベントである。参加者はチケットを購入し、参加店舗で使うことにより、特別メニューが楽しめる、という仕組みだ。合言葉は、「学生×地域＝甲東園・上ヶ原・門戸厄神をもっと元気に！」である。

生25名によって構成されている。その代表を務めた杏橋さん(経・3)は、「第2回からメンバーが増えたため、ちゃんと運営できるか心配だった。しかし、これといった問題もなく、無事に終了して、安心すると同時にやり切ったという達成感を得た」と振り返った。

# 学生×地域=甲東園・上ヶ原・門戸厄神をもっと元気に!

2回を経て、自分たちならもっとやれると感じ、第3回の開催を決めた」と話した。その言葉通り、今回の参加店舗数は前回の29店舗から大幅に増え、49店舗となった。増えた要因について、「店舗側からの紹介があるなど、我々と各店舗の間に信頼関係が結べていたおかげだと思ふ」と杏橋さんは分析した。



K.G. MOONWALK実行委員会の皆さん

最後に、今回の開催について杏橋さんは「来年は私も4年生になるので、自らの運営は厳しいと思う。他の中心メンバーも忙しくなるはずだ。しかし、今回で終わってしまうと、ただの学生のイベントというだけで終わってしまう。次世代への引き継ぎをしっかりと行い、彼らに次回も開催してもらおうことで、地域のさらなる活性化を期待したい」と展望を語ってくれた。

# 言葉を武器に

## 全日本大学ディベート選手権大会

### 全国ベスト8

11月1・2日に東京で全日本大学ディベート選手権大会が行われ、本学からも文化総務部関西学院ディベートクラブが出場した。関東の強豪チームが多く出場する中、原健太さん(文・3)と田村知智さん(経・2)のペアが17大学27チームの中でベスト8に輝

いた。今回のテーマは「日本は積極的に安楽死を合法化すべきか」についてであった。大会について、原さんは「他大学のディベートクラブと頻繁に練習を行い、資料集めを徹底したことが結果に繋がった。ディベートの賛成側では安ら

かな死を尊重し、反対側では法律化され、周囲からの圧力を受けて安楽死を選ぶことは深刻だと主張したことが、決め手となった」と話した。来年に向けた抱負について、田村さんは「今回は決勝トーナメントに進出するという公約を立てて大会に臨んだ。次は準決勝進出を目標に、より説得力のあるディベートを目指して日々の練習に励んでいきたい」と意気込みを語った。



左: 原健太さん(文・3) 右: 田村知智さん(経・2)

# 自分らしく生きたい

## ~上ヶ原キャンパスでの初の試み~

学生の有志団体「KSC×LGBT」が新月祭期間中、神戸三田キャンパスと西宮上ヶ原キャンパスにおいて、LGBT(レスビアン、ゲイ、

バイセクシュアル、トランスジェンダーといった性的少数者の総称)について発信する目的で、展示を行った。新月祭への参加は3年目だが、上ヶ原キャンパスでの催しは初めてである。来場者数は2つのキャンパスを合わせ、100人を超えた。

プースに訪れた、神戸三田キャンパスで初めて学祭でのLGBTプースの企画に携わった本学卒業生である川崎さん(仮名)は、上ヶ原キャンパスでの初の試みに対し、「今年は上ヶ原でもやりたいと後輩が言ってくれた時は本当に嬉しかった」と話した。川崎さんがバイセクシュアルであると自認したのは本

学卒業後のことだ。在学中、LGBTについての卒業論文を制作している時は自分が当事者だとは全く気がつかなかったという。そんな川崎さんが卒業後に神戸三田キャンパスで展示をしようと思いついたきっかけは、同学部の後輩の「大学や友達は大好きだが、自分らしくいられないのが辛い。生きた心地がしない」という思いだった。自分に何かできることはないかと考えた結果、川崎さんは卒業生という立場で、2012年同学部卒業のパートナーと、在学中の後輩の協力を経て初めて同キャンパスの学祭でLGBTプースを企画した。

川崎さんは、親しくしていたサークルの先輩から自分はレスビアンであるというカミングアウトを受けた際、自分の今までの言動を見返し、知らぬ間に人を傷つけていたのではないかと深く後悔したという。このような経験から川崎さんは、「LGBTに対する正しい知識を持つことで、当事者も、当事者でない人も救われる。無自覚に身近な人を傷つけてしまっていないか、今一度自分の言動を見直してほしい。これはLGBTに限らず、様々なマイノリティに対して同じだと思ふ」と語った。



LGBTプースの様子

# 第5回

## シニョーカツ最前線

### 企業分析のカギはSWOTと3Cフレーム

もう、皆さんはKGキャリアアナビを利用して、個人面談の予約は行っただろうか？学内でキャリアセンターが実施しているイベントには意欲的に参加しているだろうか？

「就職活動時期が後ろ倒しになったことが影響してなのか、昨年に比べて、動き出しが遅い学生が多い」とキャリアセンターの職員は頭を悩ませている。

エントリーを目前にして慌てないために、第五回シニョカツ最前線では「個人面談を利用する意味」と「企業説明会や先輩訪問の有効活用術」の二つに焦点を当てて紹介する。

まず、「個人面談」についてだが、KGキャリアアナビからキャリアセンターが実施している個人面談を予約できることはご存知だろうか。個人面談とは、1回あたり40分間経験豊かなキャリアセンター職員と1対1で面談を行うものだ。2014年10月〜12月中旬に原則3回、2015年1月〜3月にも原則3回まで利用することが出来る。就職活動解禁時期が近くなると、予約が殺到するため、早い時期から利用することがおすすめだ。利用の方法としては、年内の

「機会 (Opportunities)」と晒されている「脅威 (Threats)」の4点について整理するというものだ。(図1)「強み」と「弱み」を書きだすことで他社との相違を知ることができ、「機会」「脅威」を書きだすことでその企業の今後の成長要因と成長妨害要因を知ることが出来る。

2つ目の3Cフレーム分析とは、「自社 (Company)」「競合他社 (Competitor)」「顧客 (Customer)」の経済市場における3つのCに注目して行う業界分析だ。(図2)

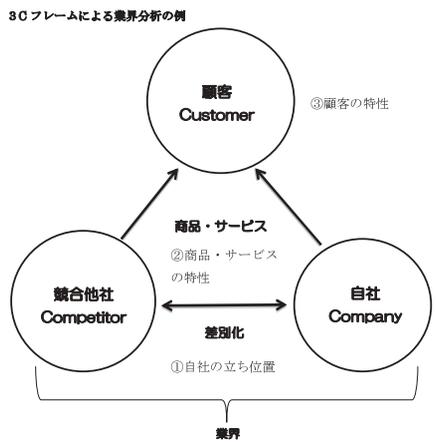
まず、自社と競合他社を比較し、ビジネスモデルの相違点を探すことでその業界における自社の立ち位置を理解することが出来る。また、共通点を探することでその業界全体が直面している状況の理解にも繋がる。

次に、「企業説明会や先輩訪問の有効活用術」を紹介する。せっかく企業説明会に参加したり先輩訪問を行ったとしても、それによって得た業界や企業の知識や特徴を整理しなければ、その意味は半減してしまう。そうならないためにも、行ってほしいのがキャリアセンター配布の「就職活動ハンドブック」に掲載されている「SWOT分析」や「3Cフレーム」による業界分析だ。

1つ目のSWOT分析とは、その会社の持つ「強み (Strengths)」と「弱み (Weaknesses)」、その企業及びその業界にめぐってき

SWOT分析の例 (ある総合エレクトロニクスメーカーの例)

内部環境	S(Strengths・強み) ・優れた液晶技術による経営の多角化	W(Weaknesses・弱み) ・他社より劣るブランド力
外部環境	O(Opportunities・機会) ・テレビの画面面化	T(Threats・脅威) ・販売価格の下落



## 日進月歩 『言葉の自由の“灯”を守れ』

論説

今日、民主国家を維持していく上で欠かせないものの一つに「言論の自由」が挙げられる。ある事柄に対して自由に意見をすることを保障するものであり、現代の民主国家においては当然の権利として、国民そして報道機関に与えられている。しかしこの権利が今、脅威にさらされている。

事の発端は今年の4月に韓国で発生した旅客船沈没事故である。事故発生当時、韓国の朴槿恵大統領の所在が7時間近く確認できず、特定の男性と密会していたのではないかと噂を紹介した朝鮮日報

報のコラムを産経新聞が取り上げた。これに対して韓国検察は現地の産経新聞記者を呼び出し、捜査を行うという手段に打って出た。また加藤達也ソウル支局長(当時)に対し、出国禁止措置を取ると共に3度にわたって取り調べを行った。そして10月8日ソウル中央地検は、情報通信網法における名誉毀損にあたるとして加藤氏を在宅起訴した。

この一連の騒動に対して菅義偉官房長官は「民主国家としてあるまじき行為だ」と韓国政府を非難したほか、米国務省のサキ報道官も8日の記者会見で「米政府は言論の自由、表現の自由を支持し、韓国の法律に懸念を示してきた」と述べた。また、国連のステファーン・ドゥジャリク事務総長報道官も記者会見で「我々(国連)は普遍的な人権を擁護するため、報道の自由を尊重する側に立っている」と強調するなど、世界各地に波紋を広げている。

確かに内容が内容であるだけに「低俗」「国家元首に対する侮辱」という批判はもつともかもしれない。だが、産経新聞側が問題として取り上げたかったのは「重大事故が起きた時の政権トップの所在・動静」という点である。これは国民の関心事であり、場合によっては政権の責任問題にも発展するものである。今回の産経新聞の一連の流れはジャーナリズムに基づいた正当な取材活動であったと言えるのではないだろうか。また、このことを最初に報じた朝鮮日報側は立件されていない

というのでも解せない話である。これでは韓国で取材活動を行う全ての海外メディアに對する「宣戦布告」と受け取られても仕方ない。実際多くの海外メディアがこの一件に對し懸念の声を上げている。

韓国政府はこの一連の騒動に對して真摯に向き合い、政権批判を封じ込めることが民主国家のあるべき姿なのかを再考すると共に、国際社会からの厳しい目線にさらされているということを再認識する必要がある。また、韓国メディアも自分自身が産経新聞の二の舞いになりかねないという認識で、朴政権の誤りを批判して行く必要がある。

一方、この件でいたずらに韓国を責めるのもナンセンスである。なぜなら「言論の自由」を脅かす風潮は国内にも忍び寄っているからだ。

昨年7月の衆議院選挙の際、TBSが放送したニュース番組の中で紹介された市民団体のコメントに自民党が反発、「わが党へのマイナスイメージを巧妙に浮き立たせた」として取材拒否を申し入れた。この件に関しては公示前にTBS側から謝罪があったため撤回となったが、政権のこうした振る舞いは「選挙が近い時期の批判は許さない」という態度にも映る。

また、昨年の12月に成立した特定秘密保護法の存在も憂慮される。この法律では安全保障にかかわる機密事項の漏えいを処罰することが出来るがその範囲は極めて曖昧かつ広範囲にわたっており、多くの公的情報が特定秘密にされ

# 新月祭2014特集!

今年も、学生たちが待ちに待った新月祭が開催されました!10月25日から26日は神戸三田キャンパスにて、10月31日から11月3日は西宮上ヶ原キャンパスにて、11月22日から23日は西宮聖和キャンパスにて実施された今年の新月祭のスローガンは「誇り」。学生のみならず、この言葉をどのように捉えたのでしょうか?各キャンパスで催されたイベントを振り返りつつ、もう一度「誇り」について考えてみましょう!

## 西宮上ヶ原キャンパス

### 二十年ぶりの関学丸岡いずみ氏講演会

11月2日に中央講堂で「丸岡いずみ氏講演会」が新月が照らす明日への道しるべ」が行われた。丸岡さんは日本テレビのキャスターを勤め、結婚を機に退社し、現在はフリーアナウンサーとして活動している。

本学の卒業生である丸岡さんは、20年ぶりにキャンパスを訪れたそうで、故郷に帰ってきたと学生時代を懐かしんでいた。今回丸岡さんは、就職活動を控えた学生に対するアドバイスや、報道現場で培った経験を語った。

丸岡さんは「本学では、人脈の大切さ」を学んだ。恩師や生涯の友との出会いは人生の宝物となった」と人と接することの大切さを語った上で、「面接官が見ているのはその人のコミュニケーション能力である。会話のキャッチボールができて、さらに自分の個性を盛り込めるかは、学生時代に人と接することで培われる」と、学生に助言を与えた。

さらに、日本テレビに中途入社し、報道記者として社会部警視庁捜査一課を担当していた丸岡さんは「現場に張り込んだり、捜査官に聞き込みを行ったり、まさに激務だった」と多忙であった当時を振り返った。そして、このようなキャリアを経てキャスターになった丸岡さんは「自分が望んだ場所ではなくとも一生懸命にやってみれば必ずチャンスは巡ってくる」と力強く語った。

後半は、東日本大震災の取材の際に発症したうつ病についても触れ、当時父親から言われた「休むことも生きる」という言葉に非常に感銘を受けたと話した。

### 関学の夜空に響け! 家入レオ後夜祭ライブ

11月3日に、中央芝生で「家入レオ後夜祭ライブ」が「Can Shin」の新月の空に輝く」が行われた。家入レオは2012年2月に「サブリナ」でデビューし、多くの楽曲をリリースしている。また同年12月には第54回日本レコード大賞最優秀新人賞を受賞した。

ライブの整理券の配布時に

は長蛇の列ができており、午後になっても列が途切れないほどの人気だった。ライブ開始前には、大勢の観客で中央芝生は埋め尽くされていた。

テレビアニメ「ドラゴンボール改」の主題歌である『純情』でライブは始まった。会場は学生を中心に大いに盛り上がり、ライブ中に興奮して、叫んだり、飛び跳ねたりする観客もいた。疾走感溢れる「サブリナ」や、未発売の新曲「SILEN」などで会場を沸かせた。ライブは寒い中、一時間半にわたり行われたが、



岩井圭子さん

また、野心を持つことの大切さについて「野心を持つことはこざかしいことではない。野心は全ての原動力につながる」と熱く語っていた。

学生時代、丸岡さんと同じサークルに所属していた岩井圭子さんは、今回の講演を聴いて「子育てが一段落し、新しいことを始めるための野心を後押ししてもらった。これからの参考になった」と話した。

丸岡さんの貴重な講演は、来場者にとってまさに新月が照らす明日への道しるべとなるに違いない。

#### LIVE直後の皆の声

- 普段で出た声よりも、ライブで出した声の方が、心から感情がこぼれ出てきた。(匿名希望・男)
- 声まはりがすごかった。寒さを感じた。(高校生・女)
- 整理券がなかった。近くで観た。(理工・2)

### 模擬店の様子を覗き見!



立ち並ぶ模擬店



店前で賑わう人々



笑顔で運営!

ライブの最後には、明日への前向きな思いが込められた「Message」を熱唱。関学生へのエールを届けた。

### 鉄道の魅力が詰まった一室 鉄道研究会展示



会長の岡本さん

4日間の上ヶ原での新月祭で密かに注目を集めていたのは鉄道研究会。「今年の目玉は去年よりもバージョンアップした鉄道模型の展示走行」と話すのは会長の岡本健作さん(総政・3)である。その言葉通り、所狭しと敷かれた線路上にはJRや阪急、阪神といった馴染みの鉄道模型が数多く走っていた。岡本さん自ら鉄道員に扮して来場者に走行中の電車の説明を行い、「来場していた人達にも興味を持ってもらえた」と満足そうな様子で取材に答えてくれた。



### 笑いの渦に巻き込む噺 文化総部甲山落語研究会

本学文化総部甲山落語研究会(以下、落研)は毎年恒例の寄席を行い、観客を温かい笑いに包み込んだ。4日間の来場者数は3565人であり、昨年を上回る大盛況であった。

この寄席を親に来ていただいた石黒加恋さん(文1)は「落語に対して最初は難しそうだが、とても分かりやすく面白かった」と話した。

また、落研会長の清水浩考さん(社3)は「小学生からお年寄りまで幅広い客層に観てもらえて楽しかった。ま



会長の清水さん

た、普段落語に触れる機会の少ない大学生に落語の面白さに気付いてもらうことが出来たのが良かった」と新月祭を振り返った。落研の寄席は多くの方を魅了し、その魅力を伝えた。

# 戦場での経験を語る 渡部陽一氏講演会

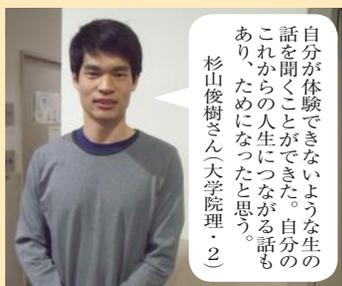
10月25日に、「渡部陽一氏講演会 世界からのメッセージ〜命と愛と絆〜」が行われた。渡部さんは戦場カメラマンとして活躍し、多数のメディアにも出演している。

渡部さんは20歳のとき、大学の授業で「アフリカの大きなジャングルでは、動物狩りをしてるピグミー族がいる」と聞き、1人でアフリカ中央部へ出かけた。紛争中だったため、血だらけで泣きながら助けを求めてくる子供たちがたくさんいた。しかし、当時大學生だった渡部さんには何もできなかった。そこで、子ども達の写真を撮って現状を知ってもらうことが子ども達の助けになると思った。そうして、昔から好きだったカメラを手に、戦場へ向かうようになったことが、戦場カメラマンになる

きっかけだという。

渡部さんが今まで戦場へ行って一番印象に残っているのは、イラクでの出来事だ。渡部さんは、双子の子どもを持つ父親に出会った。双子のうちの一人は、生まれてくるときに耳が聞こえなくなかった。父親は何とか子供に治療を受けさせたいと願ったが、戦火のために国内の病院では不可能だった。父親は海外の病院での手術を望んだが、父親自身も村人から命を狙われていた。父親は自分の命を投げ出しても子どもに手術を受けさせたいと強く望んだ。そして、その言葉通りに、自分の命と引き換えに子どもを国外へ脱出させた。その後、子どもは海外での手術が成功し、言葉も話せるようになったのだ。渡部さん自身も4歳の子どもがいるため、そのことを聞き、涙を流したという。

自分が体験できないような生活の話を聞くことができた。自分のこれからの人生につながる話もあり、ためになったと思う。  
杉山俊樹さん(大学院理2)



また、質疑応答の中で「日本にいながら世界と繋がる方法はあるか」という学生の質問に対して、渡部さんは「日本でも世界と繋がることはできる。自分の足でいるんなところに行き、いろんな話を聞くことだ。今、自分が一番やりたいと思ったことをどんどんやるのが世界と繋がる一歩となる」と答えた。

大学生の間にやっておくべきことについては、「自分の好きなページや分野だけでもいい。とにかく、新聞を読んだり、疑問に思ったことなどをどんどん追求していくことが大事だ」と語った。

# 神戸三田 キャンパス

副委員長・三田代表

伊藤大貴さん(理・3)

今年快晴の中、三田学祭ができて、無事に終わってとても良かったです。初の試みであった、アーティストによる音楽ライブも無事に終わって僕は満足です。夏休みを返上して行った会議は大変でしたが、楽しんでやれたと思っています。支えてくれる実行委員や友人のおかげで乗り切ることができました。



(写真左)

# 子どもたちとの触れ合いの場 らんらんパーク

11月22日、23日の2日に渡り、図書館前芝生にて、「らんらんパーク」が開催された。この企画には、スーパースターすくい・ヨーヨーつり・モンスタージェット・アニマルパニック・バルーン・ベタッとボールの6つのコーナーがあり、それぞれのコーナーのスタンプを集めると、景品がもらえるというものだ。会場はたくさんの子どもたちであふれ、活気に満ちていた。

この企画を開催するにあたり、大学祭実行委員会の徳田倫子さん(教・2)は、「実行委員の皆と一緒に遊具を作るのは楽しかった。子どもたちが『できた』という達成感を感じられるよう、難易度に気を付けた。子どもたちの目線に合わせて話をしたりするよう実行委員に呼びかけた。子どもたちへの対応の仕方には気を配っている」と話していた。また、会



場の子どもたちの反応を見て「今年から新しく始めた遊びもあり、楽しんでもらえるか不安だったが、多くの子どもたちが自分たちの作ったものを楽しそうに遊んでいるのを見るのができて嬉しい」と笑顔で語った。

# ロックンロールが織り成す狂演 KSSC Rock Fes

天狗がロックでもよかばい

10月26日、陸上グラウンドで「KSSC Rock Fes」天狗がロックでもよかばい」が行われた。グラウンドの特設ライブ会場には、寒い中多くの観客が足を運んだ。

彼女 in the displayは福岡県出身の5人組バンドで、2010年にデビューした。結成してわずか半年でワンマンライブを行う。その後もオリコンインディーズチャートで初登場16位を果たし、全国13か所ツアーも決行したという今注目の若手有力バンドだ。ライブでは今年12月にリリースされるアルバムの中のPLATINUM他、数曲を披露した。ボーカルの稲木亮介さんのパワフルな歌声に、会場は熱気に包まれた。

次に登場したのは「This is Not a Businessだ。2013

年にメジャーデビュー、様々なロックフェスにも参加しており、人気急上昇中のバンドである。YouTubeで1か月に25万超の再生数を叩き出した大人気曲「WITH A MISSION」など11曲を披露した。観客は曲に合わせて手拍子をしたり、頭を振ったりして盛り上がった。また、ボーカルの加藤小判さんはステージから飛び出し、観客の側まで来るパフォーマンスで観客を喜ばせた。

ライブを終えた観客たちは「どちらのバンドも迫力があってすごかった」「盛り上がる曲が多くてとても楽しめた」などと、両バンドの演奏を存分に楽しんだようだ。素晴らしい演奏を披露してくれた2組の、今後の活躍にも大注目である。

# 西宮聖和 キャンパス

副委員長・聖和代表

板倉伸悟さん(社・3)

聖和学祭、天候にも恵まれ無事に2日間終えることができました。各々がこれまでやってきたことを存分に発揮し、一つの新月祭を創り上げることができました。これまで支えてくださった皆さんに感謝するとともに、今後この経験を活かし恩返しできればと考えています。



(写真左)

# 歌・踊り・演奏のステージ キラキラコンテスト

11月22日に「キラキラコンテスト～あなたは輝く1番星～」が開催された。キラキラコンテストとは、バンドやダンスなどなんでもありのノンジャンルコンテストである。「キラキラ賞」の受賞者を決める。また、「キラキラ賞」に選ばれたチームには賞金として2万円が贈られる。今回の出演者は、ダンス、ジャグリング、フリップコント、歌というジャンルの6組だ。どのチームもこれまでの練習の成果を発揮し、素晴らしいステージであった。今年の「キラキラ賞」の受賞者は、ダンスサークルのJe veux dansantだ。去年に引き継ぎ2年連続の優勝である。女子だけの華やかなステージで観客を盛り上げた。Je veux dansantの杉原梨奈子さん(教・2)は「この日のためにずっと頑張ってきたので、キラキラ賞を受賞できてとても嬉しい」と笑顔で語った。また、je veux dansantのステージを見ていた観客は「皆可愛くて素敵だった」と話した。



(写真左)

新月祭は幕を下ろし、学内には平穏な日々が戻ってきました。紙面にはごく一部の企画しか載せられませんでした。ほかにもたくさんさんの企画がありました。さまざまな場面で生まれたドラマ、そしてその賑わいに思いを馳せると大変名残惜しいものがあります。新月祭は、学生自身の手で運営がなされています。考えてみてください。あれだけの大規模な企画を、我々学生の力で成功に導いたのです。学生生活が、学生自身によって豊かになる。この事実が、我々が誇っても良いのではないのでしょうか。

副委員長・上ヶ原代表 忠見陽介さん(教・3) 上ヶ原学祭を無事に終えることができ、嬉しいです。4月からもありますが、全員で全力で頑張ってきました。辛いときも笑いながら、実行委員の皆の笑顔と頑張っている姿を見て、僕も頑張れました。良いメンバーと出会えて幸せでした。





「わたしは13歳、学校に行けずに花嫁になる。」  
久保田恭代  
寺田 聡子  
奈良崎文乃



マララ・ユスフザイさんのノーベル平和賞受賞により、発展途上国の女子教育に興味をもった方も多いのではないだろうか。今回紹介する本は「わたしは13歳、学校に行けずに花嫁になる。」である。ただ女の子だからという理由で人生の制約や差別を受ける環境でも、状況を打開しようと懸命に生きている女の子のストーリーである。

この本の著者である国際NGO団体のプラン・ジャパンは「Because I am girl」という女の子が生きていく力をも身につけることを目標としたキャンペーン活動を行っている。この本の売り上げの一部も活動の資金として使用される。

現在、多くの発展途上国の女の子は家が貧しく、社会的な地位が低いことで教育を十分に受けることができない。そのため、彼女達は早期結婚を強いられ、人身売買の対象となったり、安定した収入が得られず自立した生活ができずにいる。この本から私たちは、日本の教育環境や

保健サービスがどれだけ恵まれたものであるのかを改めて認識させられる。本書によると、女性の社会的地位という面では日本も同様に格差があるという。

現在、日本政府も女性の社会進出に対して取り組みを積極的に進めているものの、男性は外で働き女性は家事や子育てをするという社会の役割分担の文化が未だ根深く、人々の意識を変えることの困難さを実感する。

この本は社会で生きる私達に今一度、女子教育と女性の社会進出について深く考える機会を与えてくれるのではないだろうか。

# 教授の年中



今回ご紹介するのは文学部の東浦(とううら)弘樹先生である。先生は20世紀のフランス文学、特に『異邦人』の作者として有名なアルベール・カミュの作品を研究している。先生は高校生の時に初めて『異邦人』を読んだ。そしてその物語の中で主人公ムルソーが、もうじき処刑されるにもかかわらず、自分のことを幸福だと言ったことに大きな衝撃と感銘を受けたという。先生はカミュのいう幸福とは一体何なのかということに疑問を抱き、それがきっかけで現在も、「幸福の追求」という観点からカミュの小説、戯曲を研究している。

先生は学生時代、学生劇団に所属しており、役者として活動していた。それからしばらくは芝居に携わっていなかった

## 教授として。演劇人として。

が、ゼミの女子学生の公演を観に行ったりとがきっかけで、2012年から塚口にある兵庫県立ピッコロ演劇学校に通いだした。そこで先生は役者として活動するだけではなく戯曲も書いている。今までに『銀河鉄道じゃない夜』を書いたほか、『この空の下で』の制作にも参加し、さらにどちらの芝居にも役者として出演した。これらの経験で先生は芝居の面白さを改めて強く感じ、これからは体が動く限り演劇人になりたいと考えているそうだ。

そんな先生が戯曲を書き、役者としても出演する芝居が近日上演される。題名は『マイ・スウィート・スウィート・ホーム』。中年男女3人によるラブコメディだ。先生は恋は若者だけのものではない。人はいくつになっても誰かを愛するし、そうである以上愛されたいと思っているものだ」という。この芝居は、このような普段は忘れがちだが実は当たり前で大切なことに気付かせてくれる。

## 東浦弘樹

文学部 教授

# 関学ヒストリア

## 「日本庭園」

今回は、西宮上ヶ原キャンパス経済学部棟の後ろに位置し、ひそかな安息地として親しまれている日本庭園について紹介したい。

本学のキャンパスというと、多くの方は正門から見える校舎や時計台などの洋風の建築物を思い浮かべるであろう。しかし、日本庭園は伝統的な「和」の佇まいを基調として作られた場所である。西洋の文化を意識して作られた本学に、こういった経緯で日本庭園は作られたのである。

## 静寂の美を求めて

日本庭園は本学が上ヶ原に移転した当初(1929年)から存在したようである。日本庭園の生みの親は当時の院長ベーツ氏だ。その当時、殺風景だった上ヶ原に学生の頭が休まるような、落ち着いた静かな安息の場所を設けようと博士が提案したのが日本庭園が造園されるきっかけとなった。造園費は献金や諸先生、そして同窓会の私費などによって賄われた。

日本庭園に用いられた石材は全て、キャンパス内から出土したものである。植栽林はサクラ、カエデ、クロマツなどを中心に構成されており、四季の色うつろいを色鮮やかに映し出している。本学を訪れた外来の方は「関学にもこんなにも美しく、静かなところがあつたのか」と感嘆声をもらす。

西洋の雰囲気の中に和風な日本庭園があることは一見すると無粋な様に映るかもしれない。しかし、この場所の持つ落ち着いた佇まいはこれからも学生がのんびりとした時間を過ごす憩いの場としてあり続ける。



### 日本庭園 年表

- 1929年 関西学院の上ヶ原移転とともに原形が造られる
- 1935年 キャンパスマップなどで「日本庭園」が確認できるようになる
- 1996年 水利権者からの要請を受け園内の池泉漏水防止工事を施し、同時に日本庭園の改造改修工事が行われた

とううら ひろき

- 1981年 京都大学文学部フランス文学科 卒業
- 1984年 本学文学研究科(フランス文学専攻)前期博士課程修了
- 1985年 フランス政府給費留学生としてフランスのピカルディー大学に留学
- 1989年 本学文学研究科(フランス文学専攻)後期博士課程満期退学
- 1991年 本学商学部専任講師(フランス語) 就任
- 1995年 本学商学部助教授(フランス語) 就任
- 2001年 ピカルディー・ジュール・ヴェルヌ大学文学博士号取得
- 2002年 本学文学部教授就任、現在に至る。

### 『マイ・スウィート・スウィート・ホーム』

上演日時 12/20(土) ①14:00~ ②18:00~  
12/21(日) ①13:00~ ②17:00~

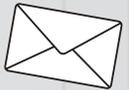
上演場所 船場サザンシアター  
前売り2,000円 当日2,200円  
(お問い合わせ、ご予約はまわりみち'39のホームページまで)



# K.G. studio

今回のK.G.studioは部室だよりとK.G. Workerです。部室だよりでは、体育会学生本部を取りまとめる勝又周平さんに、K.G.Workerでは、Robin Hood'sなど3つのお店の店長を掛け持つ柏木一三さんにお話を聞きました。

## 部室だより vol.11



### 体育会学生本部

**体育会学生本部**  
部員数：40人  
活動日：火曜昼休み  
部室：新学生会館2F  
連絡先：部活アドレス  
kgathletic@gmail.com

## K.G. Worker

#10

Robin Hood's

柏木一三さん

柏木さんは20年前から本学の食事処に勤めており、現在Robin Hood's、ほか学内の2つの喫茶店の店長を掛け持っている。Robin Hood'sは新学生会館1階にあり、ボリュームのあるメニューが評判で、お昼休みにはレジの前に行列ができる。「ドレッシングやトッピングを好みでアレンジした

り、ご飯を大盛りや特盛りに変えたりすることができ、からあげ丼は一番人気のメニュー。特に部活をしている体育会系の男子学生に人気がある」と話す。そんな、長年にわたって学生に愛されてきたRobin Hood'sだが、開店当初はなかなか売り上げが伸びずに苦労したこともあったとい

も、本部は担っていると思います。新・本部長として、何か気をつけていることはありますか？  
新・本部長として、というよりも、本部として、一つの部だけに偏って支援していくのではなく、体育会全体が発展していくように目を配っています。各部にヒアリングを行う等、より良い体育会を作っていくためにはどうしたら良いか、日々考えながら行動するようにしています。  
新・本部と、ラクロス部、勉強、アルバイトの両立……。つらい時ってありませんか？  
勝：大変さはありませんが、苦ではないですね。達成感の方が大きいです。例えば、体育会員のすさまじい努力を近くで見ている分、全国や世界で戦う選手が出てき

「何度も足を運んでくれる学生の名前を覚えたり、ちょっとした会話をしたりすることで学生のことをよく知ることが楽しいし、料理に活かされることも多い」と話す。実際に、メニューにはスポーツ選手の体のためにこだわった良質な国産ムネ肉を使用するなど細やかな

最後に柏木さんは学生に向けて、「最近は昼食を手早くカップ麺などで済ませることが当たり前の風景になってきた。週に何日かいいので、しっかりとバランスの取れたご飯をゆつくり食べる時間をつくることを心掛けてほしい」と話した。

大学に入学した当初、私は自由な時間を持って余っていた。高校時代、一定の規則と時間の制約に縛られた生活を送っていた頃は、大学の自由な空気に憧れていたものである。しかし、今は今一何をしたいのかわからなくなってしまう。一心不乱にサークルの活動にいそしんでみたり、取り敢えず資格の勉強に取り組んでみたりしてみたり、いまひとつ本気になることができない。なんとなく授業を受け、友達と遊び、アルバイトをする日々には私は退屈を感じていた。  
そんな日々を送っていた時、私はSNSでとある学生主催のイベントを見つけた。内容は一泊二日、大阪―東京間をヒッチハイクで旅するというものだ。  
ヒッチハイク自体は映画やドラマなどで知っていたが、実際に自分がやるうとは思ったこともなかった。イベントの広告を最初に見たときは、私は単純に「おもしろそう！」と思った。全く体験したことのないヒッチハイクに強い好奇心を覚えたのだ。しかし少し冷静になって考えてみると「自分は人見知りなので、初めて会った人の車に乗せてもらうなんて恥ずかしい」とや「乗せてもらった人が変な人でトラブルに巻き込まれたらどうしよう」と様々な不安がでてきた。「自分に縁のないことだから」と一時は参加をあきらめそうにもなった。  
だが、どこかで何か挑戦をしなければ、これから先の生活を何も変えることができない。私は「退屈な毎日を変えたい！」という気持ちがとても強かったため、勇気を持ってヒッチハイクに参加することを決めた。  
参加前はとても不安に思っていたヒッチハイクだが、実際に初めて見ると、刺激的で楽しい出来事の連続だった。まず、様々な人が私達を応援してくれた。道端でスケッチブックを掲げて乗せてくれる車を探すが、周辺の地理に詳しい地元の人や、ヒッチハイクに適した場所を教えてくださいました。たまたま通りがかった人が「頑張ってるね！」と応援の声をかけてくれ、時には役に立つものをくれることもあった。  
乗せてくれるドライバーの方との出会いも素晴らしいものだった。職種は普通の会社員や会社の社長、美容師や、元プロの総合格闘家の方などそれぞれ違ったが、それぞれが独自の魅力を持っていた。見ず知らずの人をいきなり車に乗せてくれるような人は心の広い立派な方ばかりだった。普段なら絶対に関わることもない人たちが関わり、その価値観に触れられるのはヒッチハイク独自の魅力であるといえる。  
見える風景なども美しかったが、やはりヒッチハイクの最大の魅力は人の温かさに触れられることだろう。様々な人の温かみや価値観に触れることにより、自分の価値観を見直す良い機会になった。  
もし自分の生活に退屈しているなら、ぜひヒッチハイクに挑戦してほしい。紙とペンと少しの勇気さえあればいつでも挑戦することは可能である。



Robin Hood'sの店長の柏木一三さん

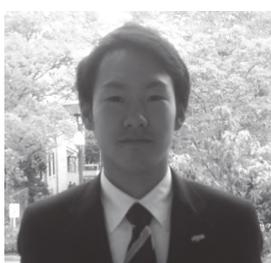
体育会学生本部の本部長、勝又周平さん（ラクロス部男子/経・3）に話を聞いた。  
新聞総部（以下、新）：体育会学生本部（以下、本部）は、どのような活動を行っているのですか？  
勝又さん（以下、勝）：関学には42部の体育会があり、約2400人の体育会員がいます。本部では、各部がより良い成績を取られるようにサポートを行ったり、各部のつながりを作れるような行事を企画したりしています。  
新：本部は、体育会の様々な部から集まった人で構成されているわけですが、ほかの部の人と関わるのはどうですか？  
勝：仲は良いと思いますよ！最近では、あまりメジャーではない競技の選手やスタッフも本部に入る数が増えてきたので、活動の幅も広がりましたし、各部の発展という役割

も、本部は担っていると思います。新・本部長として、何か気をつけていることはありますか？  
新・本部長として、というよりも、本部として、一つの部だけに偏って支援していくのではなく、体育会全体が発展していくように目を配っています。各部にヒアリングを行う等、より良い体育会を作っていくためにはどうしたら良いか、日々考えながら行動するようにしています。  
新：本部と、ラクロス部、勉強、アルバイトの両立……。つらい時ってありませんか？  
勝：大変さはありませんが、苦ではないですね。達成感の方が大きいです。例えば、体育会員のすさまじい努力を近くで見ている分、全国や世界で戦う選手が出てき

## 体育会の発展のために

た時や、関関戦6連覇などの良い成績が出た時は嬉しいです。関学外の方々と関わることも多いのですが、その時に良い評価をいただく、やっていて良かったなと思います。  
新：ものすごく忙しい毎日だと思うのですが、どうしてそんなに心に余裕が持てるのですか(笑)？  
勝：目標に向かっていく忙しさは、良い忙しさだと私は感じています。物事を後回しにせず、できることはその時にやっておくことは重要だと思います。後回しにしまつてしまつて、その時に思っていたことを忘れてしまつて、なかなか事が進まなくなつてしまつてしまうので。あとは、何でも楽しくやってみようという気持ちが大切だと思います！あまり難しく考えすぎないことです。ね。

新：最後に、関学生に言いたいことはありますか？  
勝：もっとたくさん関学の学生に、体育会の試合を見に来てもらいたいんです！  
新：お忙しいところ、貴重なお話を本当にありがとうございました！



勝又周平さん（経・3）

## ヒッチハイク体験記

大学に入学した当初、私は自由な時間を持って余っていた。高校時代、一定の規則と時間の制約に縛られた生活を送っていた頃は、大学の自由な空気に憧れていたものである。しかし、今は今一何をしたいのかわからなくなってしまう。一心不乱にサークルの活動にいそしんでみたり、取り敢えず資格の勉強に取り組んでみたりしてみたり、いまひとつ本気になることができない。なんとなく授業を受け、友達と遊び、アルバイトをする日々には私は退屈を感じていた。  
そんな日々を送っていた時、私はSNSでとある学生主催のイベントを見つけた。内容は一泊二日、大阪―東京間をヒッチハイクで旅するというものだ。  
ヒッチハイク自体は映画やドラマなどで知っていたが、実際に自分がやるうとは思ったこともなかった。イベントの広告を最初に見たときは、私は単純に「おもしろそう！」と思った。全く体験したことのないヒッチハイクに強い好奇心を覚えたのだ。しかし少し冷静になって考えてみると「自分は人見知りなので、初めて会った人の車に乗せてもらうなんて恥ずかしい」とや「乗せてもらった人が変な人でトラブルに巻き込まれたらどうしよう」と様々な不安がでてきた。「自分に縁のないことだから」と一時は参加をあきらめそうにもなった。  
だが、どこかで何か挑戦をしなければ、これから先の生活を何も変えることができない。私は「退屈な毎日を変えたい！」という気持ちがとても強かったため、勇気を持ってヒッチハイクに参加することを決めた。  
参加前はとても不安に思っていたヒッチハイクだが、実際に初めて見ると、刺激的で楽しい出来事の連続だった。まず、様々な人が私達を応援してくれた。道端でスケッチブックを掲げて乗せてくれる車を探すが、周辺の地理に詳しい地元の人や、ヒッチハイクに適した場所を教えてくださいました。たまたま通りがかった人が「頑張ってるね！」と応援の声をかけてくれ、時には役に立つものをくれることもあった。  
乗せてくれるドライバーの方との出会いも素晴らしいものだった。職種は普通の会社員や会社の社長、美容師や、元プロの総合格闘家の方などそれぞれ違ったが、それぞれが独自の魅力を持っていた。見ず知らずの人をいきなり車に乗せてくれるような人は心の広い立派な方ばかりだった。普段なら絶対に関わることもない人たちが関わり、その価値観に触れられるのはヒッチハイク独自の魅力であるといえる。  
見える風景なども美しかったが、やはりヒッチハイクの最大の魅力は人の温かさに触れられることだろう。様々な人の温かみや価値観に触れることにより、自分の価値観を見直す良い機会になった。  
もし自分の生活に退屈しているなら、ぜひヒッチハイクに挑戦してほしい。紙とペンと少しの勇気さえあればいつでも挑戦することは可能である。

### あべのハルカス



アクセス 地下鉄御堂筋線、JR線「天王寺」駅下車、徒歩数分 入場料 1,500円

大阪市の中心部、天王寺に立地するあべのハルカスは今年開業したばかりの日本一高い高層ビルであり、地上約300mの高さから大阪の街はもちろん、はるか遠くの方まで見渡すことができる。取材時は少し曇ってはいたがそれでも明石海峡大橋が見えるなどその眺望は素晴らしいものであった。

### 梅田スカイビル



アクセス 阪急線「梅田」駅、JR線「大阪」駅下車、徒歩10分 入場料 700円

梅田スカイビルは、地上173mから淀川、大阪市周辺を見渡すことができる。ドーナッツ状の空中庭園展望台は屋外にあるので、窓ガラスに邪魔されることなく夜景を楽しむことができる。空中庭園展望台と、その下のフロアはカップル向けの設備が充実している。



## Star and Jewely Night

～夜空に輝く“宝石箱”への招待状～



日本第2の都市、大阪。そして日本三大夜景の街、神戸。それぞれ夜になるとまばゆい光を放ち、昼間とは違った顔を見せる。今回は本紙記者がお勧めする夜景を取り上げる。冬の夜、空気の澄んだ中で輝く夜景はまさに光の織り成す「宝石箱」のようである。そんな世界に皆さんをご案内しよう。

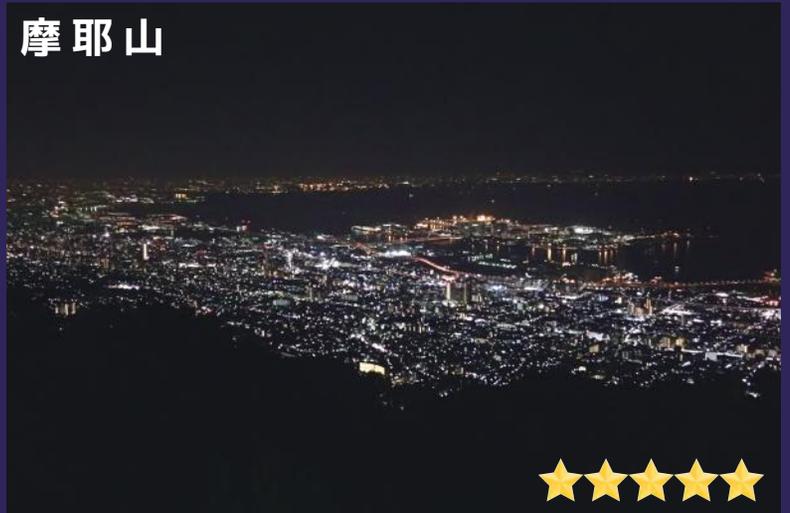
### 北公園



アクセス 阪急線「神戸三宮」駅下車、徒歩20分、またはポートライナー「中公園」駅下車、徒歩数分

ポートアイランドに架かる赤い橋（神戸大橋）のすぐ下にあるのが「北公園」である。ここからはポートタワーやハーバーランド境界がよく見え、幻想的な景色が広がる。ポートライナーで数分とアクセスも便利だが、赤い橋をゆっくりと渡ってその景色を眺めるのもまたおすすめである。

### 摩耶山



アクセス 各線「三宮」駅より神戸市バス18系統「摩耶ケーブル下」下車、ケーブルカー、ロープウェイ（往復1,540円）10分

日本三大夜景の一つにも挙げられるのが、この摩耶山掬星台から広がる夜景である。ケーブルカーとロープウェイを乗り継いで山頂へ上がると、大阪や神戸の街並みが雄大に広がり、その景色はまさしく「宝石箱」そのものである。山の上であるため寒さ対策は必須だが一見の価値ありである。

## 関学神戸三田キャンパスから一番近い教習所

### ● 取得できる車種 ●

- 大型車・中型車・普通車(AT/MT)・
- 大型二輪車(AT/MT)・普通二輪車(AT/MT)

お申込みは、大学生協サービスカウンターにて受付できます。



兵庫県公安委員会指定

**三田自動車学院**

三田市志手原1147-1 TEL:079-562-2995  
E-mail:sanda-as@poppy.ocn.ne.jp HP:www.sas-menkyokaiden.com



三田自動車学院携帯用HP QRコード